

(参考様式4)

事業活用活性化計画目標評価報告書

計画主体名	計画主体コード	計画番号	計画期間	実施期間
栃木県 茂木町	(栃木県) 90000 (茂木町) 93432	1	平成23年度～ 平成25年度	平成23年度
活性化計画の区域				
茂木町須藤地区				

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値A	実績値B	達成率(%) B/A	備考
地域産物の販売額の増加	32.48%	22.89%	70.47	

(コメント)

地域産物の販売額の増加として「ゆず」に取り組む計画を実施した結果、最終的な達成率が70.47%となった。しかしながら、計画2年目に「ゆず」が不作となり、思うような販売額の達成が出来なかったため、今後は安定的に「ゆず」の販売が出来るようJA等の機関とも連携をとっていく必要がある。その他、当初の計画外だった「ブルーベリー、林檎、梅」等の地域産物の販売額が3,469千円あり、地域還元への効果はあったものとする。

2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	事業内容及び事業量			事業実施主体
農林水産物処理加工施設	農産物処理加工施設1棟			茂木町
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日	
株式会社もてぎプラザ	平成23年度	平成23年度	H24.4.1	
事業の効果				
農産物処理加工施設が竣工し、ゆずだけでなく、他の特産品についても受け入れることが可能となり、数多くの加工品が開発されたことは勿論のこと、農家への還元にもつながった。町としても、ゆずの新規圃場の開拓をしており、今後増々販売額(出荷量)が増えるものと考えられる。				

3 総合評価

(コメント)

6次産業の2次部門を担う施設として竣工した当施設。出荷された農産物を、加工品として製造し、道の駅もてぎを中心に販売しているが、商品販売についても予想を上回る結果となり、農家さんからの出荷が間に合わないまでとなってしまった。したがって、今まで出荷をいただいたことの無い農家さんにまで声をかけ、何とか町内での6次産業完結の目的は達成できていると考える。出荷需要に農家さんからの供給が間に合っていない為、町として新規圃場の開拓にまで乗り出し、将来的に渡っての「ゆず」の確保が可能なものとする。

4 第三者の意見

(コメント)

茂木町は6次産業化を推進している先進地域である。特に、株式会社もてぎプラザが運営する「道の駅もてぎ」は、茂木町内で生産・加工された農作物等の販売を担う重要拠点である。

平成24年度に1次産業である「ゆず」生産が、天候不順により生産予定数を下回った。そのことにより、2次産業である茂木町須藤地区における農産物処理加工施設の稼働率が低減した。結果として、3次産業である地域産物の販売額は事業活用活性化計画目標に対し70.47%となった。しかしながら、3次産業である「道の駅もてぎ」における「ゆず」加工品の品目と販売額は増加した。すなわち、本事業は意義あるものとなった。

また、茂木産の「ブルーベリー、林檎、梅」等の農作物が、茂木町須藤地区の農産物処理加工施設で加工されたことにより、本事業の効果は今後も期待できる。なお、株式会社もてぎプラザは、1次産業の原材料不足に対し新たな仕入先を確保している。

以上より、時間を要するものの事業活用活性化計画は目標を達成することが予想される。